

我が日本民族をキリストへ

日本民族総福音化運動協議会

第18号

日本のリバイバル

子供を取り戻す

日本民族総福音化運動協議会 理事・会計監査
(シヨイフルグレースチャーチ牧師)小島 武
Kojima Takashi

私は三〇年前、広島教会に導かれ、牧師先生の勧めで洗礼を受け、救われ、主の栄光を受け仰ぐようになった事を思い出します。

その頃、五〇歳の姉妹の息子さん(二四歳の年齢)が、母親である姉妹に用事の為に教会に来られ、姉妹と話され、用事が済むと教会にいるのもどかしく帰られました。その間、その息子さんを知っておられる、K君。元気ですかと声をかけられ、懐かしそうに話しておられました。

息子さんの姉妹は、過去を懐かしむように、「Kちゃんも中学一年生まで教会にいつも一緒に行き毎週礼拝したものです。Kちゃんが又教会に来て礼拝できるようにお祈り下さい」と執り成しの祈りを教会員に依頼されたのです。

しかし私が一〇年後、神学校に行くため広島の教会から東京の神学校へ行く時まで、K君は再び教会に来られる事はなかったのです。

K君は中学校に入るとクラブ活動(日曜日毎週行われる)に熱心になり教会から遠ざかってくれたのです。

私は、その頃は、その事を気にも止めませんでした。しかし、その後、神学校に導かれ卒業し、現在地の近くで開拓伝道に導かれ牧会させていただくようになった時、日本の地においてリバイバルが実現されないのは、いろいろの事情が

あるのかも知れませんが、一つはクリスチャンの子供達が、小学校・中学校・高等学校のクラブ、或いは塾にと日曜日も学校・他に、とらわれている為ではと思ふようになりました。

心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。

私ができる、あなたに命じるこれらの言葉を、あなたの心に刻みなさい。

これをあなたの子供たちに良く教え込みなさい。 申命記六章五〜七節

救われた両親の信仰が子供に継承できない事情が非常に大きく作用しているのではと考えるのです。

私たちクリスチャンは、全国の教会員が苦難の種を蒔き、迫害に会いながらも罵倒されながらも種を蒔いて下さったからこそ救われたのです。

涙と共に種を蒔く者は、喜び叫びながら刈り取るう、種入れをかかえ泣きながら出て行く者は、束をかかえ、喜び叫びながら帰ってくる。

詩篇二六篇五節

私たち救いに与った者は、涙を持って種を蒔いた方がどんなに喜んでおられる事か、量りしれません。天の御使いも大宴会を開いて喜んでおられるのです。あな

たの子供に種を蒔き、両親に連れられて子供さんが教会に来られ日曜学校に来られる事は、どんなに大きな喜びでありましょうか。両親がその信仰を子供に継承して行く努力と祈りに関わらず、小学校・高学年・中学校・高等学校の方針・クラブ活動によって、せっかくの信仰の種が根を張ろうとしていた時、その信仰が揺らぎ、教会の礼拝に熱心な子供でも、友人関係を損なわない為クラブ活動を優先させなければならぬ事もあるのかも知れません。しかしこれらの事を通して教会に来られなくなるのが現状です。

確かに、多くの子供たちの中にも教会の聖日礼拝を第一に信仰生活が続けられるお子さんも、全国的におられるのは誠に喜ばしい限りですが、先に示しましたように九五%以上の子供さんが、成長して行くと共に教会を離れて行くのも現状です。

しかし後に結婚され問題が生じ再び教会にリバイバルされる方も多くおられます。しかし、大部分は信仰を失い、この時代に影響され生活しておられるのが、ほとんどです。両親の信仰が子供に継承できない事情が大きく作用しているのではと考えるのです。

学校制度が出来てからというもの、子供の魂、一〇歳までと言われますが、折角、幼い時から両親或いは母親に連れら

れて教会のCS教室で聖書の信仰の種を植え付けられながら、根が土にしっかりと張ろうとしている時に学校側の日曜日のクラブ活動・その他に子供がとられざるを得ない状況に教会側として、どのように取り組んで行けば良いのか全国の教会の課題です。

進化論

明治時代以来、小学校或いは中学校の科目で人類の祖先と云う事で進化論の授業を教え脳の成長期に、多大なる影響力を与えます。それは聖書の教え創造論と真つ向から対立するものです。学問によって教会に來られて聖書を学ばれている子供さんたちに非常に戸惑い、感わしを与えているのも事実です。

私がクリスチャンの方の伝道によって、最初に遭遇したのが進化論であり、主イエス様の数々の癒し・奇蹟の業であつたのです。

進化論にあつては、長い間、頭の中から離れませんでした。牧師先生が創造論のメッセージをされる度に反発の心があつたのです。

主イエス様の癒し・奇蹟に対してもメッセージの度に嘘・偽りである。あり得ないとメッセージの度に反発したものです。

そして私自身、洗礼を受けた後、ヨハネ二章二節～六節の御言葉にある生まれ変わりを体験していなかつたので牧師先生に話したところ、「兄弟、兄弟が生まれ変わりたいと思われぬなら、聖霊を受けませんか」と言われ、その時から聖霊を注いで下さいと熱心に求めるようになりました。

その二年後、私は聖霊の力を受け聖書の言葉一つ一つに目が開かれるようにな

り聖書の言葉は真実である、真理であると少しづつではあるが入つて來たのです。

その時から教会に行くのが楽しくてたまらなくなつたのです。

さて、祭りの終わりの大いなる日に、イエスは立つて大声で言われた。「だれでも渴いているなら、わたしのもの來て飲みなさい。

私を信じる者は、聖書が言っているとおり、その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るようになる。

ヨハネ七章三七～三八節

私は、その頃からのような形でも良から主イエス様に従いたいと思うようになり、教会に必要と思われぬ棚・トイレに至る屋根、その当時は雨が降るとトイレまで濡れながら行かなければならなかつたので、牧師先生に許可を受け礼拝堂からトイレに至る屋根をつけたものです。壊れた所を修繕させていただき、教会の奉仕が楽しく、おもしろくて堪らなかつたのです。

救われて二〇年後、主イエス様にもっともつと仕えたいと思うようになり神学校に導かれ卒業し、現在地から三〇キロ離れた所で開拓伝道に導かれ従事し、七年前に、元マルコメ味噌(株)関東営業所を教会員の必死の祈りによって購入、共に喜びの内に礼拝させていただいているのです。

私事ですが、二人の娘は成長し長女は結婚し三人の子供の母親であり、その主人は、私共の教会の伝道師です。次女は賛美リーダーとしてCS教室の教師として子供たちを導いております。

幼児の頃から子供は両親に連れられ

教会に來られ、CS教室、又は一般礼拝に集い、御言葉を学ばれる姿は実に微笑ましい光景で、素晴らしいものです。

学校のクラブ活動・塾

しかし子供が成長し小学校高学年・中学生・高校生に入ると学校のクラブ・塾に行き、日曜日のCS教室・礼拝には極端に出席しなくなられます。

土・日曜日・祭日・その上、夏休み・冬休み・春休みと長期間の休みがあり学校は休みのハズです。

これは、文部省が全国民に法律上定めた休みです。

そのような休日の時、文部省は、クラブ活動・その他の学校行事を提起し提唱しているのでしょいか？ 非常に疑問です。

もし、法律で定めているのであれば、従わなければなりません、法律上定められていなければ、学校側と話し合わなければなりません。

もし、この学校のクラブ活動が日曜日の礼拝の時、行われていなければ、子供たちは毎週礼拝に出席し教会において大きな主の戦力となり地の果てまで主イエス・キリストの栄光を宣べ伝えたであらうと思うのです。

勿論、クリスチャン人口も1%にも満たない燦々たる現状ではなかつたでしょう。現在の韓国のクリスチャン人口を大きく上回るクリスチャン国であつたかも知れません。

現在、多くの教会で若者は少なく高齢化が進み、建物はあつても教会員が一人も、おられなくなるといふ現状が迫つて來ていると言われています。

学校から子供を取り戻す

クリスチャンである御両親が学校側と話され、せめて日曜日だけは、親子のコミュニケーションの日として理解していただくよう働きかけ同意を得られるとすれば、リバイバルの大きな二環となるのではと信じます。

他方、学校側は自主的に生徒がクラブに参加しているのと云うかも知れません。

親子の愛の交わり

しかし、この時代、両親とのコミュニケーションが少なく親子の愛が冷えている時代、二億総鬱病と言われる時代、心の問題が社会現象の大きな問題となっている時代であつて、私たち一人一人が立ち上がり警鐘を鳴らさなければ、益々クリスチャン人口は衰退するでしょう。親子の愛が回復し、「父・母を敬いなさい」との神様の戒にもとづき、父・母を尊敬し信頼する子供が育ち成長して行かなければ、子供・若者を教会に取り戻さなければ、主イエス様の愛は流れなく、情緒不安定な子供が増え連日のように事件が起き、毎日のニュース番組において殺人は日常茶飯事のように行われ、益々凶悪犯罪は普通のニュースとして世にはびこつて行くのではと思えます。日本の将来は暗澹たるものになつて行くでしょう。

次の世代に福音の種を蒔いて束を抱え、喜び叫びながら帰つて來ようでは、ありませんか。

放蕩息子を主イエス様は、二日千秋の思いで待つておられるのです。(ルカ二五章十一～二四節)

ブロック活動 レポート 九州ブロック

祈りの ネットワークを築こう



九州ブロック長
橋本 守

(大分カルバリーチャーチ牧師)

日本民族総福音化運動の働きとして、九州ブロックを任されていますが、これまで何をされてよいか手詰まりの状態でありました。少々重荷に感じていましたが、祈っていくなかで示されたのが、「祈りのネットワーク」を築いていくということでした。

大分に開拓を始めたのが三十数年前です。信徒が誰もいない中でスタートでした。二年後には結婚して、二軒の借家での伝道でした。しかし、なかなか人々は救われず、少人数の遅々とした歩みでした。

そうしたなか、会堂建設の話が持ち上がり手束正昭師をお招きしたのです。

「先生、伝道をするのですが、なかなか教会は成長しません。どうしてでしょうか」。妻の質問です。

「ああそれは、この場所は非常に強い悪霊が押さえつけているので、どんな優秀な器でも難しいですよ」。

そうか、悪霊が押さえつけているのか。それを聞いた私は何か救われた気持ちになりました。無意識のうちに自分を

責め続けていたのでしょうか。

それから、霊の戦いを始めました。これについては、ここでは詳しく述べることは控えます。そうしたところ、聖霊の働きが目に見えて現れだし、教会は人数を少しずつ加えていくようになり、一年で、会堂建設が完成したのです。十数名の信徒から、およそ七千万円の会堂建設ができたのです。そして教勢は約三倍になりました。

現在は、正直言って停滞中です。これを何とか打開しようともう一度、霊の戦いを思い出しそれを始めました。

日本のリバイバルには、この戦いは避けて通れないことを確信するからです。しかし、これには大きなリスクも伴います。病気になるったり、牧会から退く牧師も出てくるのを聞きました。

どうすれば良いのか、主のみ前に苦悶してきましたが、主に教えられたことは祈りの欠如です。とりなしの祈りの重要性です。手束牧師は、早天祈禱を奨励しています。私たちも早天祈禱をしていない訳ではないのですが、き

ちつと朝六時から始めることにし、今も続けています。しかし、この九州を、日本を押しさえつけているサタンから解き放つ為には、もっと別な祈りが必要と思いました。

霊の戦いをしていくなかで気付かされたことは、悪霊の世界でもネットワークを持つという事です。そこで、教会間どうしてネットワークをもつて祈り合うなら、このサタンに対抗できるのではないかと考えました。

これは、安全な祈りです。教団・教派を超えて参加しやすいし、互いが愛をもつて祈り合うことが出来ます。祈りの課題をそれぞれ提出し、そのために祈ることが出来ます。そしてこれが網の目のように広がるなら、終末の大いなる収穫につながるのではないかと信じています。

こうして、昨年の暮れから実際に手がけてきましたが、現在二十教会近くが参加するようになりました。

毎月一回から二回、メールであるいはファックスで送信しています。祈り方は、それぞれの教会に任せています。個人の祈禱でも良いことにしています。わがカルバリーチャーチでは、毎週水曜日午前にとりなしの祈り会を持っていますのでこの時、祈るようになっています。時々、これに証も載せるよ

うにしています。近い将来には、サイトも立ち上げようと考えています。まことにこれは水面下の働きですが、とても大切な働きと信じています。この祈りのネットワークが、数が増し強められていくことを願っています。やがて、大きなうねりとなつて、リバイバルをもたらす支えていく原動力となりますように祈ります。

「絶えず祈と願いをし、どんな時でも御霊によつて祈り、そのために目をさましてうむことがなく、すべての聖徒のために祈りつづけなさい」。

(エペソ六章十八節 口語訳)

2009年度後期

理事会・ブロック長会議とオープンセミナーのお知らせ

- 理事会・ブロック長会議**
日時 ■ 2010年1月4日(月)
14:00～理事会(理事のみ)
18:00～食事&懇談(理事とブロック長)
19:00～ブロック長会議(理事も出席)
会場 ■ 大阪クリスチャンセンター201号室
〒540-0004大阪府大阪市中央区玉造2丁目26-47
電話 06-6762-7701
http://www.osakachristiancenter.or.jp/
- オープンセミナー**
日時 ■ 2010年1月5日(火)10:00～12:00
会場 ■ 大阪クリスチャンセンター201号室
主題 ■ 「国家のために祈る時」
講師 ■ 杉浩二氏(日本CBMC理事長、サンビルダー社長)
講師 ■ 向日かおり(ゴスペルシンガー・ソングライター)
讚美 ■ 讚美
会費 ■ 1,000円

※オープンセミナーはどなたでも参加できます。
※お問い合わせは事務局まで。



- JR環状線玉造り下車徒歩10分
- 地下鉄長堀鶴見緑地線玉造下車①番出口を右に出れば徒歩約5分
- 空堀町交差点をレンガの歩道沿い北へ約30m